〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み，問1と問2に答えなさい。

古代文明の中から登場した国家は，たいてい都市国家であった。大河の治水などのために強大な権力が必要とされたオリエントや東アジアでは，都市国家が統合されていき，やがて古代帝国へと成長した。これに対してギリシア文明では都市国家(ポリス)の独立性が高かった。その伝統はローマにも引き継がれた。都市国家ローマは，前6世紀末にエトルリア人の王を追放して共和政となった。最高官職は [1] (執政官)と呼ばれ，それを元老院が指導した。

だが平民と貴族との対立が起こり，前5世紀前半に護民官と平民会が設けられた。やがて十二表法が制定され，慣習法が成文化された。その後，平民の地位が向上し，平民と貴族の政治上の権利が同等となった。ローマの軍事力の中核は重装歩兵で，前3世紀前半には，全イタリア半島を統一した。そして分割統治によって，広い領域を支配できた。

やがて三次にわたるポエニ戦争(ア)によってカルタゴを滅ぼし，その後東方にも進出して地中海全体をほぼ制覇した。しかし長期の征服戦争は，ローマ本国の社会に深刻な変化をもたらすことになった。貧富の差が広まる一方，貧富双方の人々から，より一層の征服戦争が望まれるようになった。共和政の基盤が揺らぎ，[2] 派と平民派の争いが起き，やがてローマは「内乱の1世紀」(イ)と呼ばれる時代に入った。

内乱や混乱をしずめたのは，ポンペイウスらによる三頭政治であった。その中からカエサルが指導権を獲得して，前46年に全土を平定した。カエサルが暗殺されると，その部下や養子が第2回三頭政治をしいた。その中からオクタウィアヌスが頭角を現して元首政をしき，ローマは帝政時代に入った。帝政時代のローマでは，約200年にわたって繁栄と平和が続き，「ローマの平和」と呼ばれた。

五賢帝の時代は，ローマの最盛期であったが，その最後のマルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝の治世末期から，ローマ帝国の財政が行き詰まりを見せるようになった。284年に即位した [3] 帝は，帝国を東と西に分け，四帝分治制(ウ)をしいて政治的秩序を回復した。一方，皇帝を神として礼拝させ，専制君主として支配したので，政治体制は専制君主政となった。その政策を引き継いだコ

ンスタンティヌス帝は，それまで迫害していたキリスト教を公認して帝国の統一をはかった。330年にはビザンティウムに新たな首都をつくり，コンスタンティノープルと改称するとともに，巨大な官僚体制を築いた。ローマは官僚制に基礎を置く階層社会となり，ポリス以来の市民の自由が完全に奪われることになった。395年，テオドシウス帝は，帝国を東西に分割した。東ローマ帝国は1453年まで続いたが，西ローマ帝国は476年に滅んだ(エ)。

ローマはもともと多神教であった。ヘブライ人は唯一の神 [4] への信仰を固く守る一神教であるユダヤ教を生み出した。やがてそれからキリスト教が生まれ，キリスト教はローマ帝国の国家宗教となった。ローマは高度な精神文化の面ではギリシアを模倣しただけであったが，ギリシアから学んだ知識を実用化する点についてはすぐれていた。そして帝国支配を通じて，ギリシア・ローマの古典文化は，地中海世界全体に広がった。ローマの土木建築技術は有名(オ)だが，国家支配の実用的手段としてローマ法が発達したことにも注目しなければならない。ローマ法は当初ローマ市民だけに適用されていたが，やがて帝国に住むすべての人民に適用される [5] となった。ローマ法は現在のわれわれの生活にも深い影響を与えている。

問1 本文の下線部(ア)〜(オ)について以下の設問に答えなさい。

(あ) 下線部(ア)のポエニ戦争について，以下の文章の中から**不適切なもの**を一つ選び，解答欄にマークしなさい。

Ⓐ 第一次ポエニ戦争でローマはシチリア島征服に乗り出し，同島を獲得すると属州とした。

Ⓑ 第二次ポエニ戦争でカルタゴの将軍ハンニバルはイタリア半島西部に上陸し，直接首都ローマを脅かした。 アルプス越え by エレファント!!

Ⓒ 第二次ポエニ戦争でローマの将軍スキピオは，カルタゴ本国を攻撃し，前202年ザマの戦いでハンニバルを破った。

Ⓓ 第三次ポエニ戦争で前146年，カルタゴは完全に敗北し破壊された。その後ローマはマケドニアやギリシア諸ポリスを支配した。

2ところの問

(い) 下線部(イ)の「内乱の１世紀」について，以下の文章の中から適切なものを一つ選び，解答欄にマークしなさい。

Ⓐ グラックス兄弟は，大土地所有者の土地所有を保護しようとしたため，無産市民の反発を受けた。

Ⓑ 前１世紀に入ると，軍隊は有力者が無産市民を集めてつくる私兵となった。しかし中小農民が武具自弁によって編成する市民軍は依然として有力な軍事力であった。

Ⓒ 前48年，カエサルはガリア遠征から帰り，ルビコン川を渡ってイタリアに入り，ポンペイウスと決戦して勝利した。

Ⓓ アントニウスはプトレマイオス朝エジプトの女王クレオパトラと結んだが，前31年，アクティウムの海戦でカエサルに敗れた。翌年，アントニウスとクレオパトラは自殺した。

(う) 下線部(ウ)について，四帝の支配地域の首都の名前として正しい組み合わせはどれか。一つ選んで解答欄にマークしなさい。

Ⓐ シルミウム ― アウグスタ＝トレヴェロルム ― メディオラヌム ― ニコメディア

Ⓑ ローマ ― アウグスタ＝トレヴェロルム ― ウィンドボナ ― ペルガモン

Ⓒ ルテティア ― アウグスタ＝トレヴェロルム ― ビザンティウム ― ニコメディア

Ⓓ シルミウム ― アウグスタ＝トレヴェロルム ― ビザンティウム ― ニコメディア

(え) 下線部(エ)について，西ローマ帝国の滅亡に関する記述として不適切なものを一つ選んで解答欄にマークしなさい。

Ⓐ 378年，ゴート族の暴動鎮圧に向かったローマ軍は大敗北をきっし，ウァレンス帝が戦死した。

Ⓑ ４世紀の後半，東方ではウマイヤ朝が侵入し，それを討伐するため遠征したユリアヌス帝は戦死してしまった。

Ⓒ 375年に始まるゲルマン人の大移動によってローマ帝国内部が混乱した。

Ⓓ ゲルマン人傭兵隊長オドアケルが西ローマ皇帝を退位させた。

(お) 下線部(オ)について不適切なものを一つ選び，解答欄にマークしなさい。

Ⓐ 都市ローマには100万人もの人々が住み，「パンと見世物」を楽しみにしていた下層民は，闘技場での見世物を楽しんだ。

Ⓑ 現在でも南フランスに残るガール水道橋は，ローマの土木技術のすばらしさを伝えている。

Ⓒ 都市ローマではフォルム(広場)を中心に，コロッセウム，パンテオン，カラカラ浴場などがつくられ，これらの遺跡は現在でも残っている。

Ⓓ アッピア街道は北方のピサエまで続く舗装道路で，これによってローマはカルタゴを撃退することができた。

問２ 本文の空欄１～５にあてはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

1、コンスル／2、閥族／3、ディオクレティアヌス

4、ヤハウェ／5、万民法

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み，下線部(1)〜(10)に関連する問いに答えなさい。

2020年という年を人々の記憶に刻みつけることの一つとして，新型コロナウィルスの世界的な感染拡大を挙げることができる。日本でも2020年3月以降，多くの感染者を出しているが，のちの遺伝子情報の調査で判明したところによると，このウィルスの集団感染が世界最初に起きたとされる中国から，直接日本にもたらされたわけではないという説もある。すなわち，日本国内で確認されているウィルスは変異したものであり，ヨーロッパを経由し日本に到達したと見られている。

このように，ウィルス感染の拡大がウイルス自体の移動能力によるものではなく，なんらかの生物によって運ばれることにより甚大な被害をそれぞれの社会に及ぼしてきたことは，世界史においても確認することができる。人間の移動もまた文化や文明の交流を促進する反面で，戦乱と同様に疫病の拡散によって多くの悲惨な状況を生みだしてきたのである。

医学的に正確な吟味を行うことはできないが，世界史において疫病の拡大の事実は古代ギリシャにまで遡ることができる。前8世紀以降に成立した都市国家アテネは，ペルシア戦争(1)後，盟主としてデロス同盟を結んだのちに，独自の民主政を完成させ，栄華を極めた。ここで大きな役割を担ったのが，民主派の指導者エフィアルテスの死後，その地位を引き継いだペリクレスである。ペリクレスのもとでアテネの直接民主政は発達したが，スパルタとのペロポネソス戦争のさなかに，人口が密集した市内で疫病が発生し多くの市民が命を失った。このときにペリクレスもまた，同じ疫病に倒れ，死亡してしまった。彼の死後，アテネの政界は混乱に陥り，人々は和平の機会をも見失ってしまった。そして有能な指導者を欠いたアテネは無謀な作戦ののちにペルシアと結んだスパルタ(2)に降伏した。アテネではその後，貴族派により民主政は一時転覆され，独自の自由の精神もまた失われてしまった。

そして世界史上，なんども人類を苦しめたのは，ペスト菌を原因とする黒死病である。この病は1340年代後半に黒海とカスピ海付近で発生し，ノミに寄生されたネズミとともに商船でヨーロッパへ運ばれ，アラゴン，イタリア全域，バルカン半島，フランスの大部分に拡散し，ドイツ・イングランド・スカンディナヴィアへと進み，1351年には現在のロシア地域にまで到達した。この際にも黒死病は，ヨーロッパの政治・社会に大きな影響を与えた。元々，13〜14世紀のヨーロッパでは，イギリスとフランスが，それぞれの国内における勢力争いを含みながら，さらに領土をめぐって争っていた。14世紀前半，フランスは重要な毛織物産地(3)を支配下におこうとしたが，イギリス国王はフランスがこの地方に勢力をのばすのを阻止しようとした。フランスでカペー朝が断絶して新たな王朝(4)がたったときに，イギリス国王エドワード3世は母がカペー家出身であることを理由に，フランス王位継承権をめぐって戦争を始めた(5)。エドワード黒太子の活躍もあり，イギリス軍が最初優勢であっただけでなく，黒死病の流行のためにフランス国内はさらに荒廃し，フランスは崩壊寸前にまで危機に陥った(6)。この危機を救い，イギリス軍を大敗させ，最終的には勝利に導いたのがジャンヌ＝ダルクである。

また，この14世紀後半の黒死病の流行は，封建社会の衰退に拍車をかける一因ともなった。すでに14世紀初頭から商業と都市の発展により貨幣経済が発達し拡大しており，そのことが荘園に基づく経済にも浸透し，農民の生活もまた貨幣を蓄えることで変化した。その折りに，気候の寒冷化，凶作や飢饉だけではなく，黒死病もまた猛威を振るい，戦乱も相まって農民人口の減少につながった。そのため領主は荘園での労働力確保のために農民の待遇を改善せねばならず，身分的拘束はますますゆるめられることとなった。この流れのなかでイギリス・フランス・西南ドイツでは農奴身分が束縛から解放され，自営農民へと変化(7)していった。

このようなヨーロッパでの黒死病の流行の背景としては，それに先立って13世紀以降に発展した，モンゴル帝国による東西交流を挙げることができる。1206年にクリルタイでハン位についたチンギス＝ハン以降，フビライが大ハン位につくまでに勢力を拡大し，東西をつなぐ大帝国を築いた。その帝国内では最初から交通路の整備(8)が行われ，治安の維持も努められた。その結果，人と物がユーラシア大陸を東西に渡って活発に行き交う(9)ことが可能となったのである。

歴史上，疫病に伝染性があることは11世紀のイスラーム医学者であるイブン

＝シーナーの時代から発見されていた。それらの病をいかに治癒するのかについての研究も，それぞれなされていた。西洋医学においては18世紀にジェンナーが，天然痘を予防するための種痘法を確立した。そして，19世紀には病原菌が発見され，治療・予防法の普及のために，細菌学という研究分野をフランスのパストゥール，ドイツのフィルヒョーらが(10)発展させることになった。彼らの貢献により，公衆衛生についての思想も広まり，乳児死亡率の低減や平均余命の伸長につながった。また，19世紀にメンデルによって取り組まれた遺伝の法則を発見するという研究は，彼の死後，20世紀になって大きな発展を遂げ，遺伝子研究として現代にいたっている。そして，今日，世界中のウィルス研究者が新型コロナウィルスの克服のためのワクチン開発に力を注ぐ，その礎もまた，この時期の爆発的な生物学の発展に見いだすことができるのである。

問 1　下線部(1)の戦争について，ペルシア軍の侵攻に備えて，新たに発見された銀の大鉱脈による富をもとに，三段櫂船からなる海軍を建設した指導者は誰か，解答欄に記入しなさい。

テミストクレス

問 2　下線部(2)について，前4世紀にスパルタにかわって主導権をにぎったポリスはどこか，解答欄に記入しなさい。

テーベ

問 3　下線部(3)について，当時重要であった毛織物の産地の地名はなにか，解答欄に記入しなさい。

フランドル

問 4　下線部(4)について，この王朝の名称を，解答欄に記入しなさい。

ヴァロワ朝

問 5　下線部(5)について，この戦争の名称を，解答欄に記入しなさい。

百年戦争

問 6　下線部(6)について，この危機に瀕していたものの，勢いを取り戻し，イギリス軍を追い払うことに成功したフランス国王は誰か，解答欄に記入しなさい。

シャルル7世

問 7　下線部(7)について，この傾向が顕著に現れた結果，イギリスで登場した独立自営農民のことをなんと呼ぶか，その名称を解答欄に記入しなさい。

ヨーマン

問 8　下線部(8)の目的をはたすために，主要街道の一定距離ごとに宿駅をもうけた制度のことをなんと呼ぶか，解答欄に記入しなさい。

駅伝制

問 9　下線部(9)について，『集史』という優れたユーラシア全般の歴史書を編纂したイル＝ハン国の宰相は誰か，解答欄に記入しなさい。

ラシードニウッディーン

問10　パストゥール，フィルヒョー以降，下線部(10)の細菌学を継承し発展させ，炭疽菌・結核菌・コレラ菌を発見し，日本の北里柴三郎の師でもあるドイツの研究者は誰か，解答欄に記入しなさい。

コッホ

〔Ⅲ〕 次の文章A～Jをよく読み，下線部(1)～(4)のうち**適切ではないもの**を一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

A 現在確認できる中国最古の王朝は殷(商)であり，20世紀初めの発掘によって前2千年紀に実在していたことが証明された。(1)殷の国家体制は，大邑，族邑，属邑(小邑)の連合体であり，邑制国家といわれている。(2)殷の支配地域西部には周が起こり，前11世紀ごろ殷を滅ぼしたが，これは禅譲であった。(3)周王は各地の土着の首長に領地を与えて諸侯とし，その土地を代々領有させた。(4)王や諸侯の家臣である，卿・大夫・士なども地位と封土を与えられた。こうした統治の仕方は「封建」と呼ばれた。この統治制度の下では氏族のまとまりが重要であり，親族関係の秩序や祭祀のしかたを定めた宗法がつくられた。

B (1)秦が前221年に中国を統一し，わずか15年で滅びると，劉邦と項羽が力をつけ，激闘の末，劉邦が中国を統一して皇帝となり(高祖)，漢王朝をたてた。(2)赤眉の乱の後，劉秀が漢を復興して皇帝となった(光武帝)。この頃になると世界との関りも始まるようになり，(3)光武帝が倭人の使者に「漢委奴国王」の金印を授けたのは有名である。2世紀中ごろには，「大秦王安敦」すなわちローマ皇帝から中国に使節が派遣された。(4)このローマ皇帝は，マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスのことだとされている。中国からも班固がローマに向けて派遣された。

C 内陸アジアの草原地帯に登場した騎馬遊牧民は歴史に大きな影響を与えた。(1)前4世紀ごろから，内陸アジアでは匈奴，烏孫，月氏などが現れた。(2)中国は，匈奴，羯，鮮卑をはじめ，氐や羌などの侵入をうけた。五胡とは一般にこれらの遊牧諸民族をさすといわれる。これら遊牧諸民族の影響で，中国は大きな混乱期を迎えた。中国の東方，(3)朝鮮半島では高句麗，新羅，百済が成立し，この時代を朝鮮史上三国時代と呼ぶ。南部の地は加耶(加羅)諸国となっていた。581年に隋が成立し，ようやく中国が統一された。文帝(楊堅)は，南北朝時代の諸王朝の制度である均田制，租調庸制，(4)郡国制を取り入れた。しかし九品中正は廃止され，新たに科挙の制度がつくられた。

D 唐代では，経済の発展に支えられて文化が大いに栄えた。太宗の勅命で(1)孔穎達が中心となって編纂された『五経正義』は科挙の国定基準書となった。科挙で詩作が重んじられたこともあり，五言や七言の定型詩が流行した。李白は「詩仙」，杜甫は「詩聖」と称された。白居易は(2)玄宗と楊貴妃をうたった「長恨歌」や左遷後に作った「琵琶行」で知られている。また，多くの優れた書家が活躍した。(3)顔真卿は，王羲之以来の力強い書風に対し，優美・典雅な書風をおこした。散文では，(4)韓愈と柳宗元が漢代の文学を再評価する古文復興を唱えた。

E 宋代には，士大夫層を担い手とする文化が興隆した。儒学では，訓詁学に代わり，(1)経典全体を哲学的に読み込んで宇宙万物の正しい本質(理)にいたろうとする宋学が起こった。宋学は北宋の周敦頤に始まり，南宋の朱熹によって大成された。朱熹は経典の中でも，(2)『大学』『中庸』『論語』『孟子』の四書を重視した。宋代の歴史学を代表する(3)司馬光の『資治通鑑』は，皇帝の治政の参考になることを目的に書かれた編年体の通史である。美術も盛んとなり，(4)蘇軾による「桃鳩図」は院体画の代表作として知られる。

F　明末期の文化の特徴の一つとしてあげられるのは，科学技術への関心の高まりである。『本草綱目』(李時珍著)，(1)『農政全書』(徐光啓編)，『天工開物』(宋応星著)などの科学技術書がつくられ，東アジア諸国にも影響を与えた。この発展には16世紀半ば以降東アジアを訪れたキリスト教宣教師の活動も重要であった。(2)イエズス会宣教師のフランシスコ＝ザビエルは中国布教を果たせなかったが，その後，マテオ＝リッチは中国で布教を行った。(3)キリスト教は広い層に受け入れられ，ヨーロッパの自然科学を中国に伝えた。「坤輿万国全図」もまた，(4)こうした状況のもとでリッチにより作製された。

G　中国の東北地方では農牧・狩猟生活を営む女真が住んでいたが，16世紀末にヌルハチが女真諸部族を束ねて建国し，国号をアイシンと定めた。(1)ヌルハチは，支配下の満州人・漢人・モンゴル人におされて1636年に皇帝となり，国号を清とした。(2)明が李自成の反乱軍に北京を占領され滅亡した後，長城の東端で清軍の侵入を防いでいた明の武将呉三桂もまた，降伏した。清は北京に遷都し，その支配を中国全土に拡大し，(3)雲南・広東・福建に呉三桂ら3人の漢人武将をおいて藩王(三藩)とした。この三藩を清朝が撤廃しようとしたときには，抵抗して呉三桂らが反乱をおこした(三藩の乱)が，(4)第4代皇帝である康熙帝により鎮圧され，清朝の支配の基礎固めの一因となってしまった。

H　(1)中国東南沿海で反清活動をおこなっていた鄭成功とその一族は，台湾を占領し，ここを拠点に清に抵抗したが，康熙帝の海禁政策によってその勢力を奪われた。この政策は清朝の海上貿易の発展にも貢献し，(2)中国商人のジャンク船による交易やヨーロッパ船の来航を活発にした。18世紀には政治が安定したため中国の人口は急増した。清代の文化としては，動乱期を越えて落ち着きや繊細さをみせる傾向が現れてきた。(3)儒学の経典の校訂や言語学的研究をおこなう考証学や，『紅楼夢』や『儒林外史』といった長編小説を生んだ。清朝はイエズス会の宣教師から科学技術を学ぶことを推進し，暦の改定をしたアダム＝シャールやフェルビースト，「皇輿全覧図」の作製に力を貸したブーヴェなどを例として挙げることができる。しかし，イエズス会宣教師が布教にあたり中国文化を儀礼に持ち込むことをめぐって論争が起こり(典礼問題)，それがきっかけとなり雍正帝の時期にキリスト教の布教は禁止されてしまった。(4)

I　19世紀に欧米の帝国主義の攻勢下におかれた地域の一つである中国にも分割の危機が訪れた。日清戦争での清の敗北をきっかけに，欧米の列強は清朝領土内での鉄道敷設・鉱山採掘などの利権獲得競争に乗り出す。それに対し，(1)清で，日本の明治維新にならった根本的な制度改革を主張する意見を中心として台頭させたのは，孔子の説を実践的な政治理念とする公羊学派である。(2)公羊学派の康有為が断行したのは，光緒帝を説得して行った立憲君主制にむけての改革を推進する洋務運動である。改革に反対する保守派は，西大后と結んで戊戌の政変をおこした。(3)その結果，康有為と彼に師事した梁啓超らは失脚，日本に亡命し，(4)改革は失敗に終わった。

J　義和団事件後の清朝は，近代国家の建設に向けて改革を推し進めたが，増税やその中央集権的な性格ゆえに，地方の有力者や民衆の反発を招いた。(1)海外に居住する華僑の間でも，三民主義を唱えた孫文をはじめ革命派の動きが高まっていた。(2)1911年，満州皇族を中心として成立した内閣は，外国からの借款によって鉄道建設をすすめ，幹線鉄道を国有化しようとした。(3)資本家や地方有力者は，外国から利権を回収し民営の鉄道建設を行おうとしていたため，国有化の動きに猛反対した。それにともない四川では暴動が起った。蜂起が各省に広がり，その後まもなく大半の省が独立を表明した。(4)革命軍は袁世凱を臨時大総統に選出し，1912年1月南京で，アジア初の共和国である中華民国の建国が宣言された。

〔Ⅳ〕　次の文章をよく読み、下線部(1)〜(10)に関する問1〜10に答えなさい。

ゲルマン人の大移動が東ヨーロッパへ直接与えた影響は限定的であった。ビザンツ帝国(東ローマ帝国)では商業と貨幣経済が繁栄を続け，首都コンスタンティノープルはヨーロッパ世界最大の貿易都市として栄えた。

6世紀，(1)ユスティニアヌス1世(大帝)は地中海帝国の復興を目指し，一時的にそれを実現した。しかし，ユスティニアヌスの死後，外敵や異民族の侵入を受け，ビザンツ帝国の支配圏は次第に縮小した。衰勢に歯止めをかけるために，帝国内では(2)軍管区制(テマ制)の採用など制度改革が行われた。ビザンツ帝国は10〜11世紀前半に外敵・異民族の侵入を撃退したが，11世紀後半にはセルジューク朝の侵入を受け，13世紀前半には(3)第4回十字軍がコンスタンティノープルを占領する事態となった。その後も(4)衰勢を食い止めることはできず，1453年にオスマン帝国によってコンスタンティノープルが陥落し，ビザンツ帝国は滅びた。ビザンツ帝国では，ギリシャ古典文化を基礎とし，ギリシャ正教の強い影響を受けた(5)ビザンツ文化が栄えた。学問の中心はキリスト教神学で，(6)聖像崇拝論争などがたたかわされた。

ビザンツ帝国北部には古くから言語・人種が異なるさまざまな集団が往来していた。6世紀になると，スラヴ人がビザンツ帝国北側の広大な地域に急速に広がった。スラヴ人は，ドニエプル川中流域に広がった東スラヴ人，バルカン半島を南下した南スラヴ人，西方に向かった西スラヴ人に大きく分けられる。東スラヴ人が居住するロシアでは，9世紀に(7)キエフ公国が建国された。15世紀になると，(8)モスクワ大公国が急速に勢力を拡大した。(9)南スラヴ人と西スラヴ人も，東ヨーロッパにおいて多くの国を建てた。また，これらスラヴ諸民族と関係を保ちながら，(10)非スラヴ系諸民族も自立の道を歩んだ。

問 1　下線部(1)「ユスティニアヌス１世(大帝)」に関する記述として適切ではないものを次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① 遠征軍を派遣して，ヴァンダル王国と東ゴート王国を滅ぼした。

② トリボニアヌスを中心に編纂された『ローマ法大全』は，古代ローマの勅法集・学説集・法学論に，ユスティニアヌス１世(大帝)自身が公布した新勅集の４部からなる。

③ ハギア(セント)＝ソフィア聖堂の再建をはじめとする壮大な造営事業や，中国からの養蚕技術の導入などを進めた。

④ ササン朝のホスロー１世との戦いを優勢に進め，ササン朝から領土を獲得する有利な和平を結んだ。

問 2　下線部(2)「軍管区制(テマ制)」に関する記述として適切ではないものを次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① 初期のビザンツ帝国では，コロヌスを使った大土地所有制度が支配的であった。

② ビザンツ帝国にいくつかの軍管区が設けられ，その司令官に軍事・行政の権限が付与された。

③ 軍管区の兵士に対し，本人一代に限り土地所有を認めて農民兵とし，防衛力の強化と地租収入の確保がはかられた。(屯田兵制)

④ 11 世紀には，軍役奉仕の代償として貴族に領地を与えるプロノイア制が始まった。

問 3　下線部(3)「第４回十字軍」に関する記述として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① ローマ教皇インノケンティウス３世によって提唱され，商業圏拡大を目論むジェノヴァに主導された。

② ビザンツ帝国の首都コンスタンティノープルを占領し，ラテン帝国を建国した。フランドル伯ボードワンがラテン帝国の皇帝に選出された。

③ アッコンに上陸した後，イェルサレム奪回を目指したが，イスラーム勢力との戦いに敗退した。(3?)

④ 第４回十字軍によるコンスタンティノープル占領後，ビザンツ帝国の遺臣たちはトレビゾンド，エピルス(エピルス)，コルシカに亡命政府を樹立した。

問 4　下線部(4)「オスマン帝国」に関する記述として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① 14 世紀，ムラト１世はビザンツ帝国からアドリアノープル(現在のコンを奪い，新たな首都とした。

② バヤジット１世はニコポリスの戦いでハンガリー王ジギスムント率いる連合軍を打ち破った。しかし，その後のアンカラ(アンゴラ)の戦いでティムール軍に大敗し，捕虜となった。

③ コンスタンティノープルを攻略したセリム１世は「征服王」と呼ばれた。また，領土の拡大と官僚機構の整備に努め，帝国発展の基礎を築いた。

④ セリム２世はサファビー朝を破った後にシリアへ進出し，マムルーク朝を滅ぼしてエジプトを征服した。

問 5　下線部(5)「ビザンツ文化」に関する記述として**適切ではないもの**を次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① 7世紀以降，公用語としてギリシャ語が用いられ，ビザンツ社会・文化の基盤的な役割を担った。

② ギリシャ十字の形，大きなドーム(円屋根)，モザイク壁画を特色とするロマネスク様式と呼ばれる教会建築が発展した。

③ ラヴェンナにあるサン＝ヴィターレ聖堂は，ユスティニアヌス1世(大帝)や皇后テオドラの壮麗なモザイク壁画で知られる。

④ 古代ギリシャの遺産を受け継いだビザンツ文化は，スラヴ圏へ普及するとともに，イタリア＝ルネサンスにも多大な影響を与えた。

問 6　下線部(6)「聖像崇拝論争」に関する記述として**適切でないもの**を次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① ローマ教会は西ヨーロッパに勢力を拡大し，使徒パウロの後継者を自任したローマ司教は教皇(法王)として権威を高めた。

② ビザンツ皇帝レオン3世は聖像禁止令を発布し，イエスや聖母などの聖像の厳禁と破壊を命じた。ゲルマン人への布教に聖像を必要としたローマ教会はこれに反発した。

③ 聖像崇拝をめぐる対立から，ローマ教会はビザンツ皇帝に対抗しうる政治勢力の保護を求め，フランク王国に接近した。

④ 単性論や聖像崇拝をめぐる問題で対立を深めたギリシャ正教会とローマ＝カトリック教会は，1054年に相互に破門して分裂した。

問 7　下線部(7)「キエフ公国」に関する記述として**最も適切なもの**を次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① リューリクに率いられた東スラヴ人の一派が，ノヴゴロド国を建国した。ノヴゴロド国は，毛皮貿易で繁栄した。

② オレーグ率いるノルマン人がドン水系を南下し，キエフ公国を建国した。

③ ウラディミル1世の治世に最盛期を迎えた。また，彼はギリシャ正教に改宗し，これを国教に定めた。

④ 13世紀にオゴタイの率いるモンゴル軍が侵入し，キプチャク＝ハン国が建てられると，キエフ公以下の諸侯はこれに屈服し，その支配に服した。

問 8　下線部(8)「モスクワ大公国」に関する記述として**適切でないもの**を次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① キプチャク＝ハン国の下で，モスクワのイヴァン1世が大公の称号を許されたのを機に，諸侯国の中で優勢となった。

② イヴァン3世はロシア諸侯国を統一して，「タタール(モンゴル人)のくびき」からロシアを解放し，統一法典を整備した。

③ イヴァン3世はビザンツ帝国最後の皇帝の姪ソフィアと結婚し，ローマ帝国の後継者をもって自任した。

④ 初めてツァーリ(皇帝)の称号をもちいたイヴァン4世は，南ロシアやシベリアへの領土拡大，農奴制強化を推し進めた。

問 9　下線部(9)「南スラヴ人と西スラヴ人」に関する記述として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① セルビア人は当初からビザンツ帝国に対抗して独立を保ったが，ギリシャ正教への改宗は進んだ。14 世紀前半には，セルビア王国はバルカン半島北部を支配する強国になった。

② クロアティア人はフランク王国の影響下でローマ＝カトリックを受容した。他方，スロヴェニア人はビザンツ帝国の影響を受けてギリシャ正教を受け入れた。

③ チェック人は 10 世紀にベーメン(ボヘミア)王国を統一したが，ドイツとの関係が密接であり，11 世紀には神聖ローマ帝国に編入された。

④ リトアニア人は 10 世紀頃に建国し，14 世紀前半にはカジミェシュ(カシミール)大王の下で繁栄した。

問10　下線部(10)「非スラヴ系諸民族」に関する記述として適切でないものを次の①～④の中から一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

① 7 世紀，ブルガール人はバルカン半島北部でブルガリア帝国(ブルガリア王国)を建国し，その後スラヴ化してギリシャ正教に改宗した。

② ブルガリア帝国(ブルガリア王国)は，10 世紀初めにシメオン 1 世の治下で最盛期を迎えた。その後も独立を維持したが，14 世紀末にはオスマン帝国の支配下に入った。

③ マジャール人は黒海北岸からドナウ川中流のパンノニア平原に移動し，10 世紀末にハンガリー王国を建国して，ローマ＝カトリックを受け入れた。

④ ルーマニア人はギリシャ正教を受容し，14 世紀にワラキア公国およびモルダヴィア公国の 2 公国を建てたが，いずれも 15 世紀にオスマン帝国に服属した。

〔Ⅴ〕　次の文章 A～J をよく読み，下線部(1)～(4)のうち，適切ではないものを一つ選び，その番号を解答欄にマークしなさい。

A　近世ヨーロッパで凶作・不況・疫病・人口の停滞といった存亡の危機を経験することになった「17 世紀の危機」を経た後，フランスの重商主義政策は，1660 年代に財務総監となったコルベールのもとで 17 世紀の後半に新たに展開された(1)。1604 年に創設したものの十分な成果を出せなかったフランスの東インド会社を，コルベールは 1664 年に再建し，国王，有力な商人が多額の出資を行い，アジア貿易に再度注力した。同年(2)，コルベールは西インド会社を設立した。同社は 19 世紀まで続くアフリカ西岸とアメリカとの貿易の中心的役割となった。コルベールは国内の商品移動の活発化，ゴブラン織など輸出向け商品製造の特権(3)をもった王立マニュファクチュアを創設するなど，国内の商工業を育成した。貿易振興と商工業育成を目標とする政策であるコルベール主義は，近世ヨーロッパの重商政策の代表例とみなされたが(4)，自国製品のための国外の市場が必要とされ，フランスも植民地を求め，ヨーロッパ，アメリカ，アジアで激しく争うこととなった。

B　近世ヨーロッパで主権国家が形成された時期にフランスなどでは，絶対王政と呼ばれる国王を中心とした強力な統治体制が誕生する。フランスでは，1661 年の宰相マザランの死後，国王ルイ 14 世が強大な権力(1)を行使し親政を行った。「太陽王」と呼ばれたルイ 14 世は，王権神授説を主張するテュルゴーを重用し(2)「朕は国家なり」と言ったとされる。他方，イギリスでは，その立憲議会政治の特徴を説明する「王は君臨すれども統治せず」(3)という表現が使われている。ルイ 14 世は，大規模な宮殿をヴェルサイユに建造し，その宮廷には貴族，芸術家が集められ，宮廷生活は細部にいたるまで儀式化され国王の権威を高めた(4)。

C　ルイ14世のもとで絶対王政の極盛期を迎えたフランスは，国際的に存在感を増し，地位を高めた。各国はフランスの動きに注目し，この時代にフランス語は，特に外交や文化の領域において，ヨーロッパの国際語の地位を占めるようになった。ルイ14世は，「自然国境説」を論拠に対外拡張策を強行するべく，侵略戦争(1)を行ったが，周囲の国は連合して抵抗をした。彼はピレネー条約(1659年)の結果スペイン王女を后とし，1700年にスペインのハプスブルク家が断絶したとき，彼の孫がフェリペ5世として王位を継承した(2)。これに反対したハプスブルグ家のオーストリアは，イギリス，オランダなどと連合し，フランスとスペイン継承戦争を戦った(3)。この戦争を終結させたユトレヒト条約によって，フランスとスペインが合同しないことを条件に，ブルボン家のスペイン王位継承を各国に認めさせた。その代償として，イギリスは，スペインから，ニューファンドランド，アカディア，ハドソン湾地方を，フランスからジブラルタル，ミノルカ島を得た(4)。

スペイン

D　フランスとイギリスの植民地争いは長年続いた。その中でも，アメリカにおける植民地争奪において，17世紀初頭にフランスは，北アメリカではカナダにケベック植民地を建設した(1)。17世紀後半になると，フランス人ラ＝サールが探検したミシシッピ川流域の広大な地域は国王ルイ14世の名をとってルイジアナと名付けられ，フランス領とされた(2)。また，フランスは17世紀に，グアドループ，マルティニク，サン＝ドマング(現ハイチ)など，西インド諸島でいくつかの植民地を獲得し，砂糖プランテーションを発展させた(3)。その後，7年戦争とフレンチ＝インディアン戦争に負けたフランスは，1763年のパリ条約でカナダとルイジアナ全域，フロリダ，西インド諸島の一部をイギリスに譲渡し，北アメリカにおける領土をすべて失った(4)。それに対し，イギリスは，広大な海外植民地という経済発展に必要な条件を確保し，世界的な植民地帝国の基礎を確立させた。

スペイン→イギ　スペインにあげたよね

E　17世紀のヨーロッパは科学革命の時代と呼ばれた。近代的合理主義の思想や学問が本格的に確立され，自然界の研究が進歩した。フランスにおいても，数学的な論証法を用いる演繹法による合理論を確立したデカルト(1)が，近代哲学への道を開いた。「われ思う，ゆえにわれあり」というデカルトの言葉は，真理探究の出発点として，まず一切を疑ってみる，という彼の方法を明示している。合理的な知を重んじ，社会の偏見を批判する立場はすでにルネサンス期にみられたが(2)，科学革命を経て18世紀には，啓蒙思想という一層大きな潮流となった。特に，モンテスキューは『法の精神』でイギリスの憲政を讃え，ヴォルテールは，カトリック教会を批判し(3)，『哲学書簡』でイギリスを賛美した。ルソーは『人間不平等起源論』『社会契約論』において，万人の平等に基づく人民主権論を主張し，フランス革命に大きな影響を及ぼした(4)。ディドロとラプラースが編集し，フランス啓蒙思想家たちの思想を集大成した『百科全書』は，国内外に大きな社会的反響を引き起こした。

ダランベール

F　17～18世紀のヨーロッパ文化，特に芸術は君主の宮廷生活との結びつきを深め，彼らの権威を誇示するのに用いられた。フランスでは，悲劇作家のコルネイユ，ラシーヌ，『守銭奴』を書いた喜劇作家のモリエール(1)が登場し，規則と調和を重視する古典主義の文学作品が誕生した。またルイ13世の宰相リシュリューが創設したアカデミー＝フランセーズは国語の統一と洗練に努め，フランス語はヨーロッパ諸国の上流社会で広く用いられた。18世紀になるとバロック美術にかわって，フランスのルーベンスの絵画にみられるような(2)，繊細優美なロココ美術が広まり，王侯貴族や富裕市民に愛好された。大航海時代の到来以降，世界の一体化がすすみ，西欧諸国では「生活革命」が起こり(3)，貴族がまずはじめにタバコ，茶，砂糖，コーヒーなど新奇な商品を盛んに消費するようになった。そして，豊かになった市民層はそういった日常消費の面で貴族を模倣し，現代につながる文化が形成されていった。フランスでは都市部を中心に，啓蒙思想をはじめとする諸社会思想が普及し，ジャーナリズムが発展した(4)。

G　16世紀からフランス革命前までのフランスの政治・社会制度は「旧制度(アンシャン＝レジーム)」と通称されている。(1) フランス革命の勃発した背景である18世紀後半のフランスにおける最大の問題として，国家財政の赤字が挙げられる。負債の原因は，世界の覇権をイギリスと争ういわゆる「第2次百年戦争」を戦ってきたこと，(2) イギリス産業革命の開始によって両国の経済力の格差が広がり，フランスの劣勢が明らかになり軍事支出が重く国庫にのしかかったことにある。それによって，第一身分(聖職者)，第二身分(貴族)の免税特権を侵した「土地上納金」課税の是非の問題が生じた。(3) また，第三身分(平民)においてもいくつかの問題が起こった。1786年に締結された英仏通商条約(4)によってイギリスから毛織物が流入してきたことによって，フランスの繊維産業が壊滅的打撃をうけた。また干ばつ，天候不順による全国的凶作によって多くの農民が没落し，凶作に伴う食料品価格の高騰がおこった。総じて繊維産業をはじめとする工業製品に対する需要の減少によってこれら産業に従事する人々の困窮が引き起こされた。このように三身分が各々相異なる不満と不安を抱え，フランス革命を迎えることとなる。

H　1789年5月，(全国)三部会が開会したが，第一・第二身分議員と第三身分議員が対立し，会議は機能不全状態に陥った。第三身分議員は，自らの集会を「国民議会」と名付け，憲法制定までは解散しないことを誓い，第一・第二身分議員にも合流を呼び掛けた。多くの議員が合流を始め，国王もそれを認めた。しかしその後，国王は改革派と目されていた財務総監ネッケルを罷免した。それに反発するパリ民衆はバスティーユ牢獄を襲撃し，フランス革命が始まった。憲法制定議会(立憲国民議会)は，改革を急ぎ，封建的特権を廃止し，ラ＝ファイエットらが起草した人権宣言を採択したことで，身分制社会を全面的に否定し近代市民社会を謳った。1791年9月には人権宣言を前文とする1791年憲法が制定され，身分制社会から近代市民社会への移行を画するものとなった。(1) プルードンは，「人権宣言」には女性の権利が書かれていないとし，1791年に『女性の権利宣言』を刊行し，(2) 女性は権利において男性と同等なものと主張した。国王がヴァレンヌ逃亡事件で信頼を損なったのち，1791年10月に開かれた立法議会では，(3) 革命のこれ以上の進行を望まない立憲君主派と，大商人の利害を代表して共和政を主張するジロンド派が対立した。1792年春に政権を握ったジロンド派は革命に敵対的なオーストリアに宣戦したが，(4) その軍隊は戦意に欠け，オーストリア・プロイセン連合軍がフランス国内に侵入した。パリ民衆と義勇軍は，1792年8月国王のいたテュイルリー宮殿を襲い王権を停止させた。1792年9月，新たに国民公会が成立し，王政の廃止，第一共和政の樹立が宣言された。

I　ナポレオン＝ボナパルトはコルシカ島生まれの軍人であり，のちフランス皇帝となった人物である。パリ士官学校を卒業後，1793年のトゥーロンの反革命運動や1795年王党派の反乱を鎮圧して抜擢され，1796年にイタリア方面軍司令官，98年エジプト遠征司令官となった。1799年ブリュメール18日のクーデタで総裁政府を倒し，統領政府を樹立して第一統領となり独裁権を握った。1802年終身統領，1804年に皇帝に即位した。ダヴィド作の「ナポレオン戴冠式」の絵画には，ナポレオンの皇后ジョセフィーヌに冠を授けようとしている様子が描かれている。(1) そのジョゼフィーヌは跡継ぎの男子が出来ず離婚され，その後ナポレオンはオーストリア皇女のマリ＝ルイーズと再婚する。(2) 1805年，イギリス・ロシア・オーストリア等は第3回対仏大同盟を結成し，(3) 同年10月にはウェリントンの率いるイギリス海軍が，フランス海軍をトラファルガーの海戦で破った。ナポレオンは，オーストリア・ロシアの連合軍をアウステルリッツの戦いで破り，1806年，みずからの保護下に西南ドイツ諸国をあわせライン同盟を結成した。ナポレオンは，対外戦争などの勝利でヨーロッパのほとんどを支配下，勢力下に置いたが，1813年，プロイセン・ロシアなど諸国連合軍は，ライプツィヒの戦いでナポレオンを破り，さらに翌年にはパリを占領した。(4)

J　フランス革命とナポレオン体制後のヨーロッパの秩序再建のためにウィーン会議が開かれた。議長であるオーストリア外相メッテルニヒらの保守主義が優位になり，ウィーン会議の結果，ヨーロッパでは諸列強は協力してヨーロッパ各地で広まった自由主義とナショナリズムを抑えることで政治的安定をめざした。(1) フランスやスペインではブルボン王家が復活し，ロシア皇帝はポーランド国王を兼ね，プロイセンは東西に領土を拡大し，イギリスは旧オランダ領のスリランカ，ゴアの領有を認められ，オランダは旧オーストリア領ネーデルラント（ベルギー）を譲られ，オーストリアは北イタリアを得た。スイスは永世中立国となり，ドイツ連邦があらたに組織された。(2) ウィーン体制成立後も，ドイツの学生組合による改革要求，スペインの立憲革命，イタリアの秘密結社カルボナリの蜂起，ロシアのデカブリストの乱など，自由主義的改革を求める動きは収まらず，ウィーン体制の反動政治の重点はオーストリア・ドイツなどの中欧地域に後退した。フランスでは，ルイ18世を継いだ国王シャルル10世が，貴族，聖職者を重視する反動政治を行った。(3) 国王は国民の不満をそらすためアルジェリア遠征を実行したが，選挙で反政府派が圧勝すると未招集のまま議会を解散したことに抗議の声が上がった。(4) これによりパリで革命がおこり，自由主義者として知られたオルレアン家のルイ＝フィリップが王に迎えられ七月王政が設立された。